

○山室地区タウンミーティング会議録(概要)

日 時:平成 30 年 10 月 20 日(土)

午前 10 時から午前 11 時 25 分まで

場 所:山室公民館

出席者:約 70 人

テーマ 1 富山市の安全で安心なまちづくりについて:市民生活部

<主な説明事項>

富山県・富山市の刑法犯認知件数

富山市内の主要街頭犯罪等発生状況

富山市安全で安心なまちづくり推進条例

①防犯設備の設置等

②自主防犯団体への支援

③高齢者等の安全確保

④無施錠被害の防止対策

⑤万引きの防止対策

⑥犯罪被害者等への支援

⑦安全で安心なまちづくり推進月間の設定

防犯カメラ

防犯カメラの設置目的

戸建て住宅への設置

戸建て住宅の設置場所

街頭防犯カメラの設置

街頭防犯カメラの設置場所

設置する場合の留意事項

本市の防犯カメラ設置事業補助金

【市民生活部の説明に対する質問】

・不審者情報の提供手段、方法について、またどのような手段で受け取ればよいのでしょうか

・警察からの提供件数は少ないと感じるが、富山市が独自で提供しているものについて
(生活安全交通課長)

富山県警察で安全情報メールを配信する取り組みをさせていただいております。富山県警察のホームページから登録されると、不審者などの情報が、その方の登録メールアドレスに配信される仕組みとなっており、この安全情報メールを通じての情報提供となります。どなたでも登録できますので、ご活用いただければと思います。

地域の方々に情報を発信しなければならない事案が発生した場合、生活交通安全課から地区センター、幼稚園、保育所、公共施設等へ情報を発信しております。

・今年の 6 月における奥田交番の事件は、学校などには速やかに連絡があったと聞いているのですが、富山市ではなく、教育委員会からの情報発信ですか

(市民生活部次長)

6 月 26 日の奥田交番、奥田小学校襲撃事件の際、富山市に警察から連絡があったのは、15 時ごろです。事件発生は奥田交番の襲撃が 14 時 6 分ごろで、奥田小学校の襲撃が 14 時 24 分ごろ、犯人の現行犯逮捕が 14 時 25 分ごろです。富山市が連絡を受けたころには、犯人は既に負傷し、病院へ搬送されていたと思われます。これが時間の経緯でありまして、拳銃を所持した犯人がいまだに逃走中であれば、警察、富山市が総力を挙げて情報を発信することになります。

・防犯設備の設置についての資料に、防犯灯とあるが街路灯を含む考え方でよいので
しょうか

・街路灯設置の奨励の意味について

・生活道路が暗いと感じているが、個人でも富山市にお願いすれば設置してもらえるの
か、あるいは町内会を通じて依頼するのか、その流れについて

(生活安全交通課長)

防犯灯とは、いわゆる道路灯や街路灯のことです。道路灯や街路灯を設置するのは基本的に道路管理者になると思われます。市道であれば、富山市の建設部、県道であれば富山県土木センターになると思われます。

犯罪防止の観点から、設置してほしいという意味で奨励との記載をしています。このようなご意見があったことを、道路管理者へお伝えさせていただきます。

・富山市が設置している防犯カメラはありますか

・犯罪が多発している場所は、積極的に富山市が設置している箇所もありますか

・他の校区における設置状況について

(市民生活部次長)

富山市で設置しているものは、主に施設管理を目的として設置しております。教育委員会においては、学校施設に設置しています。先ほどの資料に警察、地方公共団体、民間事業者、地域住民等の連携の図がありましたが、富山市としても公共空間向けに防犯カメラを設置する必要性を感じており、現在検討しているところです。

(生活安全交通課長)

富山市の補助制度を利用した防犯カメラの設置状況ですが、平成 26 年度から制度が始まり、平成 29 年度までに 17 団体で 48 台設置されています。

・防犯カメラについて、町内会単位として設置している場所はありますか

(生活安全交通課長)

富山市の補助制度を利用した 17 団体は自治振興会や町内会ですが、町内会単位の方が多いです。

テーマ2 富山市の観光施策について:商工労働部

<主な説明事項>

1 観光を取り巻く情勢

①観光とは何か？

②「観光先進国」に向けて

2 富山市の現状について

①富山市の将来人口推計

②北陸新幹線の開業効果

③外国人観光客の状況

④観光客が期待するもの

3 富山市の観光戦略について

①富山市観光戦略プランの主な事業

4 特徴的な事業の紹介

①富山市まちなか観光案内所の開設について

②富山フィルムコミッション事業について

【商工労働部の説明に対する質問】

・「観光まちづくり」、「安全なまちづくり」などの「まちづくり」のひらがな表記に、こだわりはありますか

・「まちづくり」という言葉が手作りで行っているとの意味合いで解釈していましたが、だ

いたいそのような解釈でよろしいのですか

(商工労働部長)

「観光によるまちづくり」、「防犯によるまちづくり」とこだわりが無いのですかと尋ねられたら、ひらがなに対するこだわりはあります。

(企画管理部長)

富山市の基本となります「まちづくり」の政策は、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりとのことで、10 数年前からこのまちづくりを基本として、色々な取り組みを行っております。コンパクトなまちづくりの「まちづくり」をひらがな標記としておりますので、基本的にまちづくりの場合は、ひらがな標記としています。

「まちづくり」のニュアンスにつきましては、それぞれに思いを持っていただければと思います。富山市はそのような思いも受けながらまちづくりを進めていきたいと思っています。

・観光施策について、富山駅周辺がいつまでも工事中であり、駅前に食堂がありますが、1軒あるだけでは効果がないと思われま
す。全体の青写真について教えてほしいです
・金沢は早く対応を取っていると思われま
すが、富山は富山駅ができたとしても全体がな
かなか見えないと思うことが市民の感
覚と思われま
す。スピード感がなく、富山はやっ
ぱり富山だちやとの感じしかありませ
ん。そこが気になります

(商工労働部長)

富山駅の北側と南側の路面電車における南北一体化ですが、来年度末には開通して一体化しまして、ようやく連続立体交差事業が完成する予定です。あと1年半お待ちいただければと思っております。富山駅前の活用については、「さかな屋撰鮮」しかありません。JR西日本と富山市所有の土地がありますが、JR西日本さんもいろいろと計画はあると思われま

すので、近い将来にまた何か建つのかと思います。商工労働部としては難しいのですが、活力都市創造部が主体的に行っていて、いろいろと活用計画を考えていると思われま

すので、もうしばらくお待ちください。

(企画管理部長)

富山駅前の南西街区については、JR西日本と富山市が所有しています土地があり、そこを一緒にして新たな開発を行う構想がございます。「さかな屋撰鮮」につきましては、暫定的に営業しておられます。開発が進みますと、また違った形であのような形態のお店がどこかに営業されると思われれます。

・IT活用による海外への情報発信については、チンドンコンクール、おわら風の盆などのミニ動画など、音声も入っているものを媒体としていますか

・富山市内在住の外国の方の目線や意見などを吸収する方法は考えていますか

(観光政策課戦略係長)

ITを活用したプロモーションですが、富山市では富山市観光協会がホームページを作成しまして、富山市まちなか観光案内所における甲冑着付け体験などは、プロモーション動画を作成しまして、伝わりやすいものとして発信しております。チンドンコンクールなどにおきましては、最近では外国人の方が増えております。なぜかについて口頭によるヒアリングを行ったところ、行政からの情報発信によるものもありますが、みなさんが実際にお越しになり、撮影されて写真より広まっていることが現実です。実際にチンドンコンクールでいろいろな国籍の方がお越しになりました。意外でしたが、私が声をかけただけでも、「ロンドンから来ました、パリから来ました」と。「直行便も無い国、地域からどのような手段で来られたのですか」と質問しますと、友人が多いからとのことでした。私たちはそのように情報発信してもらえる方々を大事にしながら、魅力的なイベントを発信し続けていきたいと思っております。

外国人からの目線とのことですが、先ほども説明させていただきましたが、香港の社長さんを「富山市海外観光アドバイザー」に委嘱しました。私たちも直接海外へ出向いて、「日本についてどのように思われますか、富山の事を知っておられますか」と声かけをしてきました。実際には、海外の方は富山のことを知りません。知らないながらも、立山黒部アルペンルートは知っているとのことでした。これが現実です。海外の方の目線か

らは、そこでしか体験できないものをぜひ教えてほしいとのことです。富山市としても、どのような視点があるかを、そのようなヒアリングなどを通して考え続けていきたいと思えます。

・国が掲げる目標の倍に近い6000万人もの旅行者数の想定に対して、今までの進め方では、対応できなくなるかもしれませんが、具体的に10年、20年後を見据えた時に、誰がどのような形で、考えて実行するのが可能であるかも絡めて、どのようなプラットフォーム、ビジネスモデルが想定されているのでしょうか

(観光政策課戦略係長)

数がすごく多い中で、本当にそのように実現出来るのか、受け入れ態勢がどこまでできるのかと、ご指摘のとおりと思います。誰が行うのかとのことですが、実際には行政だけではできません。海外へ行きまして、プロモーションを行っていることも先ほど説明しましたが、ご本人たちの経費で行っていただくのですが、市内のホテルや、飲食店、あとはランドオペレーターと言って現地に来ていただいている時に旅行を手配する事業団体さん、そのような方々にお声をかけさせていただいて、実際に彼らが現地で外国の方々の目線で学びながら、受入れた時にどのように、どこで消費を喚起させようかとか、作戦を練りながら、行っているところです。まだまだ、そのような事業者の方は決して多いわけではございませんが、一部成功例が出てきておりまして、海外の方を積極的に受け入れることによりまして、飲食店が昔の賑わいを取り戻したことがあります。そのような方を講師とした授業または講演会も実際に行っております。実際に将来6000万人の数字を目指した時にどんな形なのと聞かれたときに、富山市として明確なものを持っているわけではありませんが、基本的には事業者さんたちに、このような観光ビジネスの魅力、旨みのようなものを分かっていたらけるように、啓発していきながら進めていきたいと思っております。

・新幹線の沿線である金沢市や新潟県、長野県と広域的に付加価値を付けたような魅力のあるツアーモデルを作るべきと思いますが、そのような発想で取り組むことはできますか

(観光政策課戦略係長)

先ほどの説明にもありましたが、実際に北陸新幹線の沿線都市と一緒にプロモーションを行い、長野市、飯山市、岐阜市と交流し、お互いの観光情報を交換しながら動向をうかがっている状況です。海外のサイトを見ますと海外の方々がバスツアーなどで、ご意見のありました広域的なツアーを実施しているようです。実際はどこかの空港から入ってきた後に、ずっと周遊しながら動いてくる形で、旅行エージェントの方々が、付加価値を得るために行っている動きになります。富山市として、もっとそのようなことを行うべきとのご意見もありましたので、そのようなことも考えながらプロモーションを進めていきたいと思っております。

最近の動向としましては、連携中枢都市として近隣の滑川市、立山町、上市町、舟橋村と共に、付加価値の高いプロモーションを進めていこうと動き始めたところです。またそのような動きを見守っていただけたら、大変ありがたいと考えております。

この山室校区において、「観光は私に関係あるのか」との考えを持たれている方もおられるかもしれませんが、県道の向こうに「スパ・アルプス」が見えますが、最近ホテルのカプセル化を進めまして、一生懸命誘客をしておられます。実はみなさんがお住まいの地域でも、そのような事業者の人がいらっしゃいます。恐らくスーツケースを持ちながら歩いている外国の方や日本の方が増えてくるかもしれません。そのような方に、「バス停はどこですか」と聞かれましたら、「中市のバス停は2つありますから分かりにくいのですが…」と、そのような案内をしていただけると山室もよい所だよねと思っただけだと思いますので、この場を借りてお願いしたいと思っております。

【その他意見交換】

なし

※発言の一部を整理して掲載しています(広報課)